

H.Kの事例

これは、月と太陽のトランジットを考える上で、H.Kの体験から得られた参考となる事例です。
ムフルタにもつながる話です。

H.Kは昨年2008年の秋から年末にかけて自動二輪の中型免許取得のために教習所に通っていたのですが、卒業検定の実技試験で2008/12/6と12/14の2回も落第してしまいました。

これはその時のダシャーとトランジットを示したものです。

Ma	As		Sa Ke MeR
	H.K Chart D/1		Su Mo
JuR			Ve
Ra			

Mo			
	2008/12/6 卒業検定1回目 不合格		Ke
Ve Ra	Ve/Ve/Ju/Mo/Ra		Sa
Ju	Ma Su Me		

1回目も2回目も共通して言えることは、日頃、練習の時にはしなかったようなミスをしてしまったということで、具体的に言えば1回目は坂道に侵入する際にギアの切り替えでニュートラルに入ってしまう、エンジンの空ふかしをしてバランスを崩して車体を転倒したり、2回目ではスラロームというジグザグに走行するコースで、途中でエンジンをストップしてしまったりと、普通ではあり得ない突然のアクシデントで全く予想もしなかったミスをしてしまったことです。まず、これらの試験に落ちた時のミスの状況についてイメージして頂きたいのですが、これは明らかに8室の突然の不幸とか災難とか事故といった象意です。

			Mo
	2008/12/14 卒業検定2回目 不合格		Ke
Ju Ve Ra	Ve/Ve/Ju/Mo/Ve		Sa
Me	Ma Su		

	2008/12/23 卒業検定3回目 合格		Ke
Ju Ve Ra	Ve/Ve/Ju/Ma/Ke		Sa
Su Ma Me		Mo	

卒業検定に落第した時のトランジットを見れば、1回目も2回目もラグナロードの火星と自分自身を表わし、肉体の表示体でもある太陽が8室に在住しています。そして月は1回目ではラグナから12室、2回目ではラグナから3室、月、太陽からみて12室に在住しています。

そして、卒業検定は3回目ようやく合格したわけですが、この時はラグナロードの火星と太陽が9室に移動して月はラグナから7室、月、太陽からみて4室のケンドラをトランジットしていました。これらの経験から分かることはラグナロードや太陽や月がトランジットするハウスの影響がその人の運気に強く影響するという事です。

落第した時と合格した時のダシャーの違いは金星/金星/木星/月から金星/金星/木星/火星にシフトしていることです。スークシュマダシャーロードの月に対して、ケートゥがトランジットしているため、それで4室乗り物に関する判断ミスや損失が生じたとも考えられます。

然し、はっきりと言えることは、合格したときには8室にラグナロードや月、太陽など惑星のトランジットはなく、月、太陽は9室やケンドラなどのよいハウスをトランジットしていたということです。

このトランジットの原理はムフルタにも応用可能なもので、8室に惑星がトランジットしている時は、物事の成否を決定するような試験とか、勝負事、新規事業の開始などをしてはいけないということです。8室は支配者のハウスであり、そこに自分自身を表わすラグナロードや太陽や月が在住するということは支配者による妨害を表わします。従って、予期せぬトラブルや不幸に見舞われて物事が成就しないのです。

例えばムフルタではアシュビニーは物事を開始するのに良いナクシャトラだといえます。

従って、この知識からすると太陽や月がアシュビニーにトランジットした時に物事を開始するのがよいという事になりますが、然し、乙女座ラグナの人にとってはアシュビニーは8室になります。すると8室に惑星がトランジットしている時に物事を開始するとそれは失敗したり、障害にあって発展しないことになります。逆に月が減衰する蠍座に惑星がトランジットする時に物事を開始しない方がよいと考えられますが、魚座ラグナにとっては9室への惑星のトランジットのため、海外旅行に出かけたり、教師に会いに行ったり、高度な学問を修めたり、精神的な成長に役立つ事柄を開始する時期になるため、必ずしも月が減衰する蠍座だからといってわるい訳ではありません。つまり、ハウスシステムが最も重要であるということになります。ラシチャートの分析やトランジットの分析でも惑星の高揚、減衰の分析よりもむしろ、ハウスの法則の方を重視しなければ解釈上の大きな間違いを起こします。

ムフルタでもナクシャトラに付与されたムフルタで使う象意(物事の開始によいとか、結婚によいとか)はハウスの法則の大きな枠組みの中で用いなければならない知識です。それだけにこだわることは出来ません。

また上記のH・Kの事例で8室のアシュタカヴァルガの点数について気になるところですが、H・Kの8室蠍座のサルヴァアシュタカヴァルガは29点で、火星が3点、太陽が3点です。

9室射手座の点数はサルヴァアシュタカヴァルガは28点で、火星が5点、太陽が3点です。

似たり寄ったりでたいして変わらず、トランジットの太陽、火星のアシュタカヴァルガの点数よりもむしろ、8室をトランジットしていたということの方が重要であったことが分かります。

ハウスの法則がまず最も重要であることが分かります。そして、トランジットもそのハウスの法則の枠組みの中で解釈します。